

定期作況報告

令和3年10月
(10月20日現在)



道総研

北見農業試験場

1. 気象経過

9月下旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年並で、平均気温はやや高かった。降水量は平年より多く（平年比192%）、日照時間は平年並であった（平年比115%）。

10月上旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は高く、平均気温は極めて高かった。降水量は平年より少なく（平年比43%）、日照時間は平年並であった（平年比82%）。

10月中旬：最高気温は平年並で、最低気温、平均気温ともやや高かった。降水量は平年より多く（平年比129%）、日照時間は平年並であった（平年比96%）。

以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温はやや高く、降水量はやや多く、日照時間は平年並であった。

気 象 表

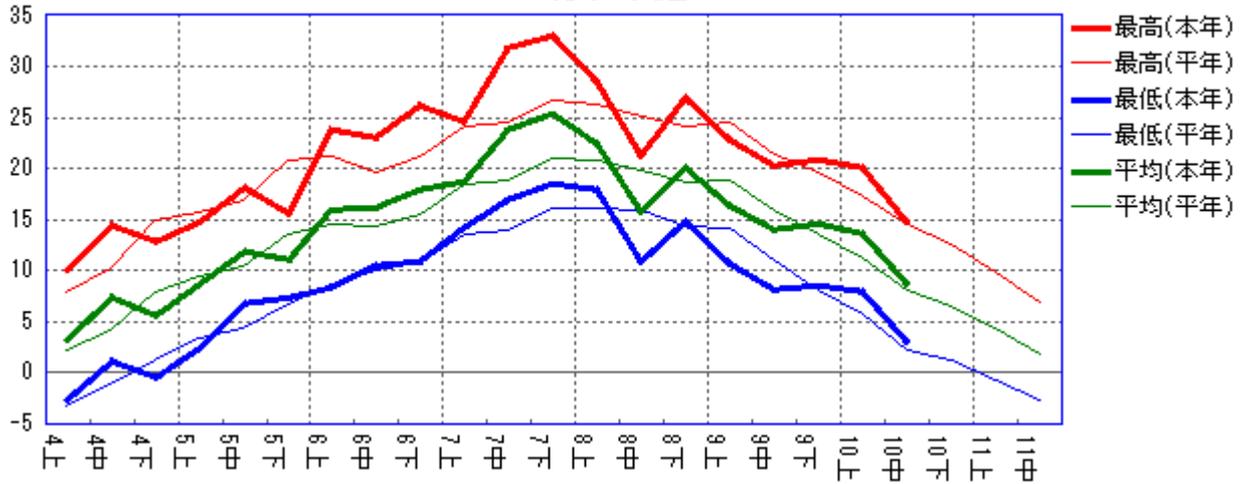
月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	14.5	13.5	1.0	20.9	19.7	1.2	8.5	8.0	0.5
10月 月上旬	13.6	11.1	2.5	20.0	17.2	2.8	7.8	5.6	2.2
10月 中旬	8.7	8.0	0.7	14.8	14.6	0.2	2.9	2.2	0.7

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	55.0	28.6	26.4	62.9	54.6	8.3
10月 月上旬	14.0	32.4	-18.4	45.7	55.5	-9.8
10月 中旬	42.0	24.9	17.1	50.5	56.0	-5.5

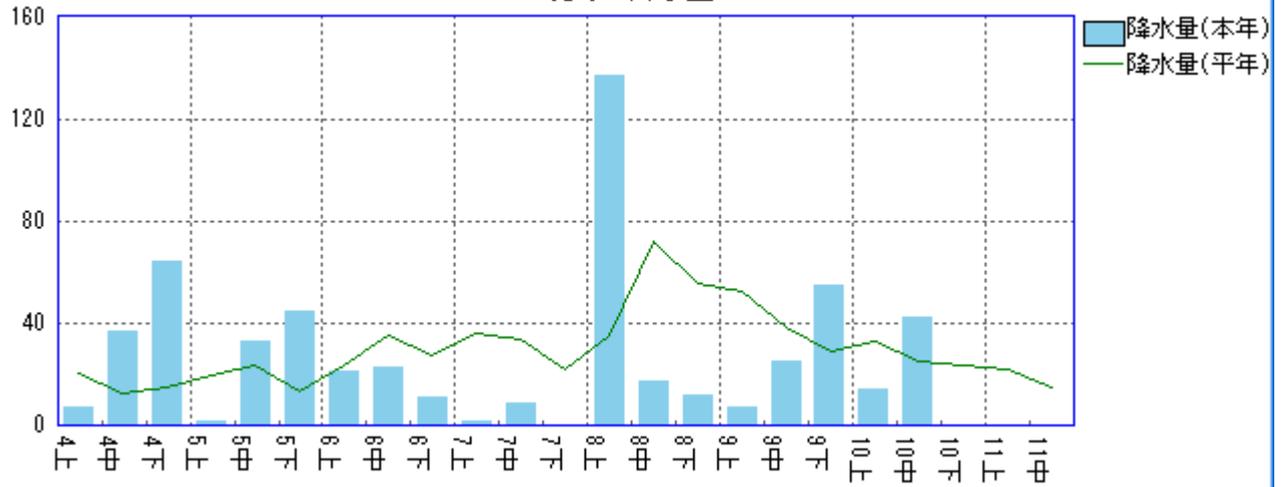
注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。

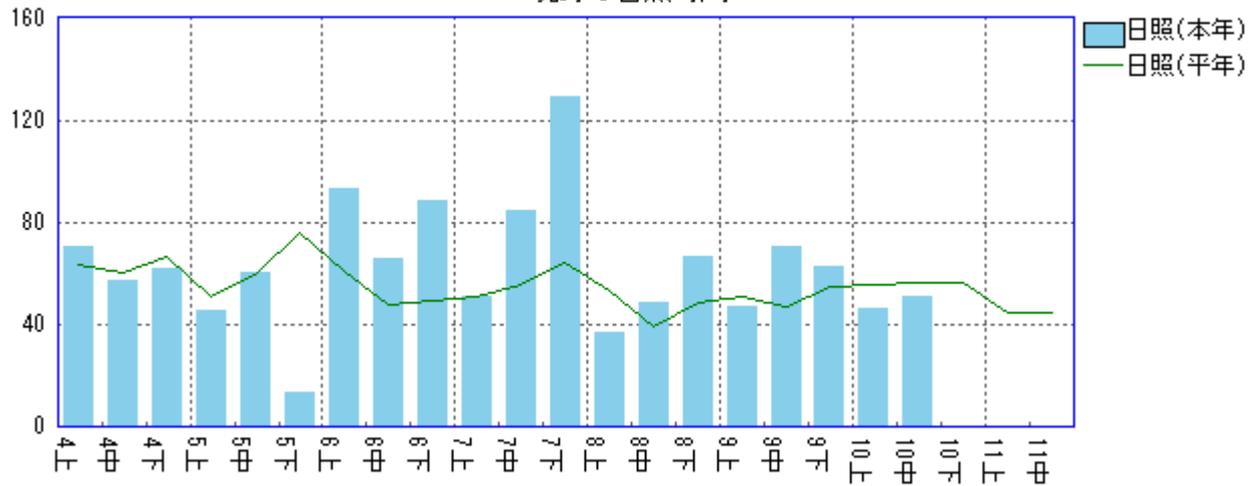
境野の気温 (°C)



境野の降水量 (mm)



境野の日照時間(h)



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) とうもろこし(サイレージ用)

作 況：やや不良

事 由：収穫期は平年より4日遅い9月28日であった。総体の乾物率は平年より4.4ポイント高かったものの、子実の熟度は黄熟初期と平年並であった。収穫時の稈長が平年より39cm低かったことから乾物茎葉重は平年より112kg/10a少なく、乾物総重および推定TDN収量は平年比93%および94%とやや少なかった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
収穫期 (月.日)	9.28	9.24	4
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期	-
稈長(cm) (9月20日)	222	261	△39
生総重(kg/10a)	5224	6447	△1223
乾物茎葉重(kg/10a)	797	909	△112
乾物雌穂重(kg/10a)	992	1016	△24
乾物総重(kg/10a)	1790	1925	△135
同上平年比(%)	93	100	△7
推定TDN収量(kg/10a)	1307	1393	△86
同上平年比(%)	94	100	△6
総体の乾物率(%)	34.3	29.9	4.4
乾雌穂重割合(%)	55.4	55.3	0.1
有効雌穂割合(%)	100.0	99.1	0.9

注) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 大豆

作 況：やや不良

事 由：成熟期は平年より11日早い9月14日であった。平年と比較して主茎長はやや短く、主茎節数は同等、分枝数は多く、着莢数はわずかに多かった。一莢内粒数は平年より多かったが、子実重は平年比95%とやや低収であった。これは7月から8月上旬まで高温と極端な少雨傾向が続いた影響で小粒になったためと推察される。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	9.14	9.25	△11
主茎長(cm) (成熟期)	61	64	△3
主茎節数(節) (成熟期)	10.4	10.2	0.2
分枝数(本/株) (成熟期)	5.7	4.9	0.8
着莢数(個/株) (成熟期)	73.2	71.1	2.1
一莢内粒数	2.09	1.92	0.17
子実重(kg/10a)	325	342	△17
同上平年比(%)	95	100	△5

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 小豆

作況：平年並

事由：平年と比較して、「エリモシヨウズ」では成熟期は1日早く、主茎長は短く、主茎節数と分枝数は多く、着莢数と一莢内粒数はやや少なかった。「きたろまん」では成熟期は3日遅く、主茎長はやや短く、主茎節数は多く、分枝数は少なく、着莢数はやや多く、一莢内粒数は少なかった。子実重は、「エリモシヨウズ」で平年の94%、「きたろまん」で同107%と、品種によって傾向が異なった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	エリモシヨウズ			きたろまん		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月・日)	9.28	9.29	△1	9.29	9.26	3
主茎長(cm) (成熟期)	63.6	74.9	△11.3	66.4	69.4	△3.0
主茎節数(節) (成熟期)	16.1	13.8	2.3	15.4	13.0	2.4
分枝数(本/株) (成熟期)	4.7	4.3	0.4	3.2	5	△1.8
着莢数(莢/株) (成熟期)	49.2	51.5	△2.3	50.7	48.5	2.2
一莢内粒数	6.27	6.43	△0.16	5.77	6.45	△0.68
子実重(kg/10a)	353	375	△22	390	365	25
同上平年比(%)	94	100	△6	107	100	7

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

4) 菜豆

作況：不良

事由：平年と比較して着莢数は多く、一莢内粒数もやや多かった。開花期以降に著しい高温干ばつ傾向が続いたため百粒重は平年より20.8g軽く、子実重は平年比74%と低収であった。また、小粒により屑粒率は平年より28.0ポイント高かった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
着莢数(莢/株) (成熟期)	23.2	20.7	2.5
一莢内粒数	2.90	2.79	0.11
子実重(kg/10a)	225	306	△ 81
同上平年比(%)	74	100	△ 26
百粒重(g)	45.1	65.9	△20.8
屑粒率(%)	41.9	13.9	28.0

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒は、農産物検査規格における被害粒および未熟粒に準じる。

5) ばれいしょ

作 況：良

事 由：「男爵薯」の枯ちよう期は平年より 23 日遅い 9 月 24 日であった。上いも数、上いも平均重ともに平年を上回り、上いも重は平年比 134%と多かった。「コナユタカ」の枯ちよう期は降霜の影響によって平年より 7 日遅い 10 月 20 日となった。上いも平均重は平年よりも小さかったものの、上いも数が平年よりも多く、上いも重はやや多かった。でん粉価は 1.1%高く、でん粉重は平年比 110%と多かった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	男爵薯			コナユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちよう期 (月・日)	9.24	9.1	23	10.20	10.13	7
上いも数 (個/株)	12.2	10.3	1.9	10.4	8.9	1.5
上いも平均重 (g)	114	103	11	145	168	△23
上いも重 (kg/10a)	6186	4611	1575	6738	6475	263
同上平年比 (%)	134	100	34	104	100	4
でん粉価 (kg/10)	16.6	15.0	1.6	22.6	21.5	1.1
でん粉重 (kg/10a)	—	—	—	1456	1323	133
同上平年比 (%)	—	—	—	110	100	10

注) 平年値は前 7 か年中、平成 30 年 (最凶)、令和元年 (最豊) を除く 5 か年の平均。

6) てんさい 作 況：良

事 由：収穫は、ほぼ平年並の10月19日に行った。この一か月間は、最低気温が平年よりやや高かったため、根中糖分の伸びは抑制され、平年をやや下回った。しかし降水量および日照時間が十分であったため、根部の肥大は順調に進み、根重は平年を大きく上回った。そのため、糖量は平年を大きく上回った。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (10月20日)	3750	4399	△649	4600	5494	△894	4560	4823	△263
根重 (kg/10a) (10月20日)	9480	7747	1733	8400	6982	1418	8530	6378	2152
根中糖分 (%) (10月20日)	17.22	18.28	△1.06	18.50	19.09	△0.59	17.04	18.22	△1.18
糖量 (kg/10a) (10月20日)	1628	1415	213	1553	1331	222	1453	1160	293

注1) 平年値は前7か年中、平成26年（最豊）、28年（最凶）を除く5か年の平均。

7) 牧草(チモシー)

作況:不良

事由:3番草の収穫は平年より3日遅い10月6日に行った。2番草刈取り(8月4日)後は、8月下旬、9月下旬および10月上旬は気温が高く推移したほか、日照時間は8月中旬以降平年並から多く推移した。そのため3番草の生草収量は平年より137kg/10a多く、乾物率は平年並で、乾物収量は平年比131%と多かった。しかし、1~3番草の合計乾物収量は平年比89%と少なかった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	3番草	10. 6	10. 3	3
病害罹病程度	3番草	3.5	3.1	0.4
草丈(cm)	3番草	42	41	1
生草収量(kg/10a)	3番草	576	439	137
	1~3番草合計	3,475	3,833	△358
乾物率(%)	3番草	29.0	29.0	0
乾物収量(kg/10a)	3番草	167	127	40
	1~3番草合計	810	909	△99
同上平年比(%)	3番草	131	100	31
	1~3番草合計	89	100	△11

注1) 平年値は前7か年中、平成28年(最豊)、令和元年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。